

実践報告（8月8日　9：00～12：00）			
Ⅰ　学校図書館の日常サービスが、教育を支える 田中　瑞穂さん（箕面市立第三中学校　司書）		Ⅱ　学校図書館から学んだもの 海上　和美さん（三重県立松阪工業高等学校　学校司書）	
箕面市では1992年から学校図書館に専任司書の配置が始まり、その取り組みは1995年の学図研第11回岐阜大会で報告されました。司書配置から20年以上たち、「司書がいていつでも利用できる図書館」は今学校の中でどんな役割を果たしているのでしょうか。児童・生徒の知的好奇心を支え、教職員と共に教育を創る学校図書館の働きを、箕面市立第三中学校の実践を中心にお話しします。あわせて、箕面市の学校司書が「専門職集団」としてのスキルアップを目指し、継続して取り組んできた研修についても報告します。		司書として37年間で6校の学校図書館に赴任しました。全国から来た工場で働く女子たちが通う昼間2部定時制高校を皮切りに、やんちゃな子たちのいる普通高校、聾学校、地域連携型中高一貫校、盲学校、そして伝統のある工業高校。いろいろな校種の学校だったけれど、教師・職員や生徒に鍛えられながら、それぞれの学校に合った使われる楽しい学校図書館をめざして来ました。反省することも多いけれど、振り返ったら学校や図書館からたくさんのことを学んできたことに気が付きました。それをまとめて報告します。	
ナイター（8月7日　19：00～21：00）		分科会（8月8日　13：00～17：00）	
A	子どもの育ちに司書がどうかかわるか（担当：島根）	1	毎日の図書館サービスが授業を支える（担当：大阪）
「何でこんなことしなきゃいけないの？」課題を前にした子どものこんなつぶやきや戸惑いに、学校司書はどう応えていけばよいのでしょうか。子どもたちが何に困っているか分析し、学校司書がそれに対して、直接的な声掛けや授業支援から日常活動まで、どうアプローチすべきか考えてみませんか？　いくつかの事例をもとにグループで話し合い、考えを深めていきましょう。		読書や学習を支える日常的な図書館サービスは授業支援に欠かせないものです。蜂須賀公子さん（箕面市立第三中学校　司書教諭）の実践報告を聞き、先生と司書で共に教育を創ることを中心に、学校にある図書館としての働きについて考えましょう。田中瑞穂さんの実践報告を受けた分科会です。	
B	ご当地大賞大集合（担当：鳥取）	2	アクティブ・ラーニングをアクティブに学ぶ（担当：東京） 定員：40名
「とっとり秋の読書大賞」「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」「神奈川学校図書館員大賞（KＯ本大賞）」「岡山の高校図書館プレゼンツでーれーBooks」から報告します。 各地で行われているおすすめ本を選ぶ企画について、その面白さや継続するコツ、課題などについて語り合いましょう。		今、アクティブ・ラーニングが注目されています。小・中・高の現場も変わります。学校図書館が授業でどの部分を担うと児童・生徒の学びがアクティブになり、より深まるのでしょうか。アクティブ・ラーニングを体験することで、考え、討議し、発表します。アクティブ・ラーニングを実践したい先生の目を図書館に向け るヒントを見つけましょう。 *事前課題あり。	
C	本の紹介動画を作ってみた！（担当：熊本）	3	学校図書館として「平和」を考える（担当：岡山）
本をPRする新たな手法として動画作りをご紹介します。一例として、文化祭で図書委員が制作した動画を上映します。本の魅力をどう「見せる」か!?　生徒たちの試行錯誤は必見です!!　扱いやすいソフトを使ったやり方ですので、PCが苦手な方も安心してください。簡単な作り方が学べます!!　動画作りの第一歩として参加してみませんか？　あなたも、挑戦したくなること間違いなし。		紛争やテロ、言論の自由が脅かされている事例などが連日報道されている昨今、子どもたちが「平和」について考えることは大切です。そのためには、過去の歴史や現在起こっている問題などを知り、考えることができる、知る自由を保障する学校図書館の働きが欠かせません。子どもたちが主体的に考えるために学校図書館にできることは何か、授業や図書館行事など小・中学校での事例をあげながら、話し合いましょう。	
D	学校図書館で実物資料を使ってみよう！（担当：兵庫） 定員：20名	4	どこをおさえる？ レファレンスのツボ（担当：兵庫） 定員：30名
学校図書館で「実物資料」を使ってみませんか？　校内や専門機関などから楽器や日用雑貨、民族衣装などの「実物」が借りられます。授業で用いる仲介を学校図書館がすることで、もっと幅広い授業ができるかもしれません。活用事例を参考に、実物に触れることの意義や利用できる関係機関について話し合いましょう。利用したことがある人、歓迎！ *事前アンケートあり。学図研HPをご覧ください。		“レファレンス”と聞いて「とてもそこまでは…」なんて思っていないませんか？　「面白い本ない？」も立派なレファレンス！　児童生徒のつぶやきを拾って、いっしょに調べることで“！”につなげる。先生方との立ち話から授業に発展する。そのことで蔵書も充実する。学校図書館は、レファレンスに応えることで成長します。大切なレファレンスのツボをいっしょに学びませんか？ *事前アンケートあり。学図研HPをご覧ください。	
E	手づくりは楽しい！　アイデアが広がる作品（担当：鹿児島） 定員：30名	5	考えよう、学校でのビブリオバトル（担当：埼玉）
図書館を生き活きさせる作品を作って展示に使いましょう！　手作り大好きな人、館内の展示で困っている人、「誰でもできる」を基本に作ります。また、実際作った作品をどのように展示すると、本をより効果的に引き立たせられるか考えましょう。 *材料代300円・ハサミ・ホッチキス・カッター・スティックのりをご持参ください。		中学校の教科書に取り上げられ、教育現場に浸透しつつあるビブリオバトル。学校で行うビブリオバトルをどう捉えるか、学校図書館はどうかかわるかを考えます。参加者全員でビブリオバトルを行った後、休み時間や給食の時間に遊びとしてビブリオバトルを取り入れている三浦一郎さん（姫路市立手柄小学校教諭）の実践報告を手がかりに話し合います。 *あなたが読んで面白かった本を一冊ご持参ください。	
F	「人」の配置に関する情報交換（担当：職員問題を考えるプロジェクトチーム）	6	学校図書館スタートガイドでお悩み解決（担当：福島） 定員：30名
学図研は、学校図書館職員のあり方として、図書館専任の専門職員、さらに正規職員(専任・専門・正規)であるべきことを、確認しています。2015年4月改正学校図書館法が施行されました。学校司書配置に各自治体でどのような変化がでてきているのか、また、動きをつくりだしているのかを参加者同士、各地の状況や取組を持ち寄り情報交換します。状況を共有し、問題点を考え、充実にむけて、一緒に考えていきましょう。		学校図書館や司書の仕事で悩んでいることはありませんか？　この分科会では、長野支部が発行した『学校図書館スタートガイド』（少年写真新聞社）を元に、学校図書館の業務とは何かを捉え直し、自分の悩みを解決する見通しを探ります。悩みという「問題点」に気づくことは、自分の仕事を変えるチャンスかもしれません。グループ討論やベテラン司書によるアドバイスで、悩みをスッキリ解消させましょう！	
G	ようこそ、おはなしの森へ！（担当：岐阜）	7	学校図書館がプライバシーを守るために（担当：事務局・長野）
子どもも大人も、おはなしの世界にひたってみませんか？ 第1部のおはなし会は、絵本・紙芝居・パネルシアターなどで小さい方から楽しめます。第2部のストーリーテリングは、語りの世界へ子どもから大人までご案内します。合間に、読み聞かせやおはなしについても語り合いませんか？		「図書館の自由に関する宣言」は、「図書館は利用者の秘密を守る」と謳っています。では、どんなことをしていれば、プライバシーを守っていると言えるのでしょうか？　分科会で提示するたたき台をもとに、いっしょに考えてみませんか。そして、実施困難なことについては、それを阻んでいる要因は何か、どうしたら解決できるかを、参加者みんなで探っていきましょう。	
H	岐阜城ナイトツアー（担当：京都・岐阜） 定員：20名	8	学校司書の資格・養成を考える（担当：職員問題を考えるプロジェクトチーム）
織田信長が「天下布武」の拠点とした岐阜城と情緒残る町並みを探索します。天守閣から見渡す濃尾平野のパノラマ夜景は一見の価値あり。『国盗り物語』『関ヶ原』（司馬遼太郎著）から、松尾芭蕉、川端康成、舟橋聖一まで、岐阜の歴史と名作を体感しませんか。18時45分ホテル前出発、21時30分帰着予定。 *必要経費1,500円程度。参加者には別途ご連絡します。		学校司書の資格・養成について、文科省や各関係団体で本格的な研究がすすめられています。学校司書の配置は小・中学校では進んではいるものの、採用条件は様々で、曖昧なところも少なくありません。こうした状況のなか、この分科会では、学校図書館の役割と学校司書の専門性を踏まえ、どのような知識・技能をもった学校司書が必要か、を考えていきます。 *参加者は「わたしたちの課題」をお持ちください。	